



# Muse Letter

2010.10 No.42 発行・札幌市博物館活動センター

〒060-0001 札幌市中央区北1条西9丁目 リンケージプラザ内5階

TEL 011-200-5002 FAX 011-200-5003 <http://www.city.sapporo.jp/museum/>

## あれから8年…庭の植物の“うごき”

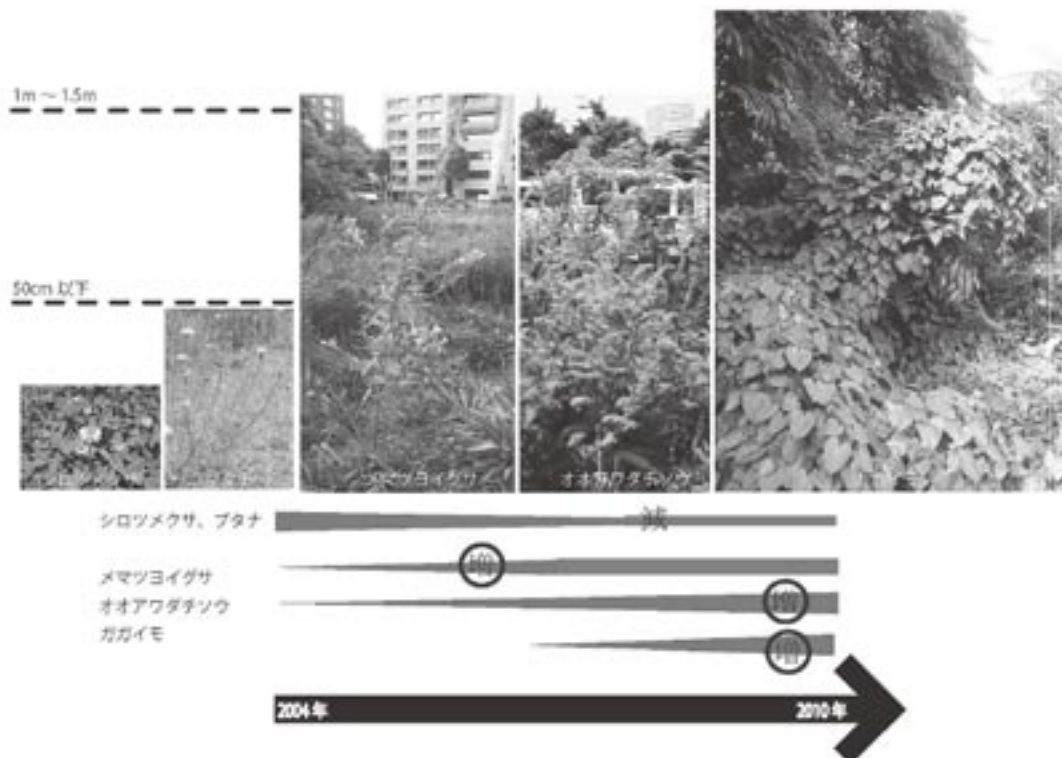
「発見はあしもとから」と題してミューズレター12号（2002年7月）で、当センターが入っているリンケージプラザ（中央区北1条西9丁目）の庭を紹介しました。それから8年が過ぎ、植物は自由にはびこり始めています。というのも、観察会で庭を利用するために2004年から草かりをやめたからです。

2004年当時はシロツメクサ\*（クローバー）やブタナ\*など草丈が低い植物が「主役」で、庭全体にまんべんなく生えていました。茎の高さが1mにもなる草は生えていませんでした。ところが、草かりをやめた翌年2005年から草丈が1m近くなるメマツヨイグサ\*（2年～多年草）が目立つようになり、今年はおオアワダチソウ\*（多年草）が勢力を拡大し、「主役」の座を奪う勢いです。

さらに、今年は大きな変化がありました。ガガイモ（ガガイモ科、つる植物、多年草）が他の草木の上につるを伸ばし、おおいかぶさってきたのです（写真）。このまま庭を自然の移り変わりにまかせたらどうなるでしょう。ガガイモもおオアワダチソウも、タネで増えるほかにササのように地面の中に茎を伸ばして次々に新しい株をつくることができます。おオアワダチソウの黄色いお花畑になるのか？それとも、そこにガガイモがおおいかぶさって、光を奪うのか？植物は動物のように短時間で動きませんが、長期間観察すると、年々繁る種類が入れ替わっているのがわかります。札幌中心部にある小さな庭ですら、植物たちの“静かな戦い”が見られます。（山崎）

\*：外来種。もともと日本になかった種類。

※アワダチソウの仲間は虫が花粉を運ぶ虫媒花とされ、花粉症の主要原因となる風媒花ではありません。



「博物館」を意味する英語Museumの語源であり、喜びを表すmuse（ギリシャ語）と通信や手紙を意味するLetter（英語）からMuseLetterと名付けました。



# 実習生が作った展示も見てね!

学芸員資格を取るために必須科目となっている実習で、今年も市立大学、酪農学園大学、武蔵女子短期大学から6人の大学生が来ました。

 <p>引き出し展示「見やぶれ!大変身」</p>	<p>引き出し展示のねらいを明確に伝え、どうしたら楽しんでもらえるのか必死に考えました。(H.Y.)</p>	 <p>引き出し展示「森のかくれんぼごっこ」</p>
<p>博物館は「利用者との交流を大切にしながら、工夫を凝らしている、たくさんの発見がある宝島」だと思いました。(Y.S.)</p>	<h2>実習を終えて…</h2>	 <p>地史見学会に同行</p>
<p>子供から大人まで様々な人に説明することがこれほど難しいのか、と感じました。(M.N.)</p>	 <p>「釣ってしらべる!海のそっくりさん」</p>	<p>博物館は来館者を待っているイメージでしたが、実習で外へ向けて発信もしていることがわかりました。(R.I.)</p>
<p>貴重な収蔵資料を多くの人に見て欲しい。そして知識を深めてもらうためにどのような方法で提供していくかを考えることが重要だと思いました。(M.H.)</p>	 <p>昆虫採集会に同行</p>	<p>学芸員は研究者というイメージだったが、実際には自分の専門以外も知らなければならぬし、人とのコミュニケーション能力も重要な要素だと思った。(M.Y.)</p>

実習生が化石の名前ラベルを作りました。

開催中、**無料**

第31回企画展 故早川浩司氏寄贈コレクション公開展示第1弾

# マダガスカルのアムモナイト展

～12月4日(土) まで  
札幌市博物館活動センター・ミュージアムギャラリー

